

◎ 夏の奥志賀高原

赤石山・岩菅山・焼額山

小倉 修

奥志賀は冬のスキーとともに夏の名峰めぐりの佳境だ。特に高年層の登山者に楽な中級山岳が揃っていて、その選択に困るほどだ。

新ハイキング・サービステーションの「ホテルむつみ」をベースにして、赤石山と岩菅山と焼額山にこの3年間に登った。

東館山から赤石山―大沼池へ

赤石山は東館山から登れば容易だ。一の瀬で唯一の温泉があるこの宿に前泊。翌朝、快晴のもと宿の車で発哺のゴンドラ駅まで行く。初発8時30分は登山者にとって遅い出発だ。

山頂駅に着くと、そこは東館山植物園だ。イブキジャコウソウ・コマクサ・ニッコウキスゲ・オオバギボウシの群生の中を窪地へ少し下り、分岐で左へ幅広い道を緩く登ると、寺小屋スキー場のゲレンデに出る。北西の空に岩菅山の全容が大きく望める。

ゲレンデの上部が寺小屋山の登り口で、急な木段道がササの中を頂上まで続くきつい登りだ。寺小屋山(三等三角点峰2125・0m)は狭い頂上で、展望はない。ここから金山沢ノ頭までは少し下って登り返す泥濘の悪路である。

金山沢ノ頭(2130m)の頂上に



赤石山から見おろす大沼池

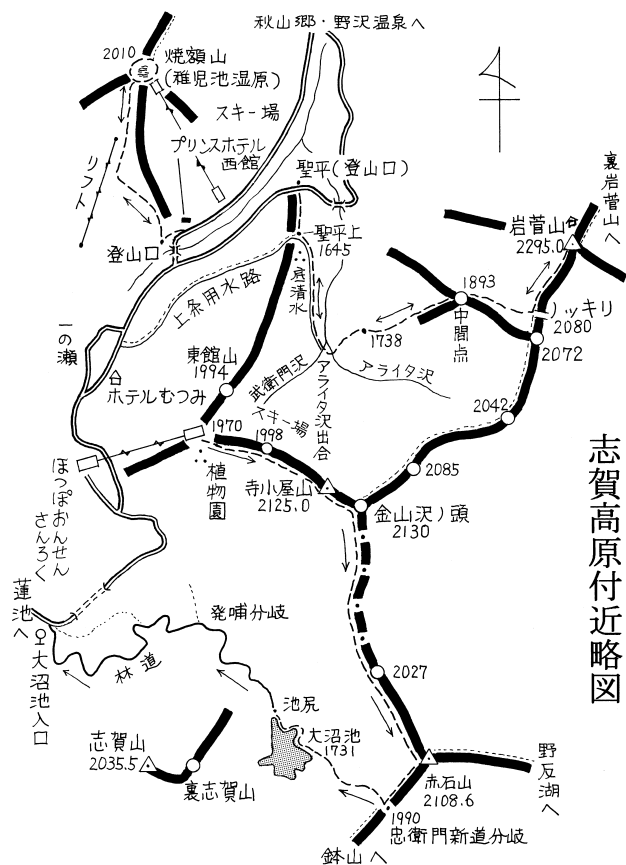
は、明治時代の農商務省の主三角点の標石が立つ。展望のない山頂をあとに、右(南)へ刈り払いされた幅広い山道を緩く下る。道は下り基調だが、赤石山までの稜線にはコブが5つほどある。2つ目のコブの下りで正面に待望の赤石山の、頂上に2つの赤い大岩とザレ

のある山容が初めて望める。

次のコブの登りで振り返ると、岩菅山の全景が美しく望めるが、樹林帯が切れた所では真夏の陽光が容赦なく照りつける。最後の標高点コブ（2027m）を下った鞍部から赤石山への登

りが始まる。山頂へは左側から登る感じで、ほどなく黒木の多い頂稜部に着き、南へ少し行くと頂上だ。赤石山（3等三角点峰2108・6m）は狭い山頂に三角点と道標が立つ。石祠の先の岩礫の堆積の上から大沼池

志賀高原付近略図



の紺碧の湖面の絶景を見下ろす。池の後方には志賀山と裏志賀山が立ち、左奥には横手山とその稜線が望まれる。

陽光が燦々と降り注ぐ狭い山頂で昼食ののち、野反湖への小道を分けて大沼池への南尾根を下る。頂上の赤い大岩とザレ場を右に見下ろす道を、足もとに注意しながら下る。大きな黒い岩稜に沿って急下降すると道は緩くなり、「忠衛門新道」の分岐に着く。振り返ると赤石山が大きい。

分岐から西方向の木段道を下降する。思ったより長い木段道だが根気よく下っていくと、樹間を透かして湖面が遠く見え始め、私たちを導く。左手にレストハウスが現れると、青く澄んだ大きな湖面が眼前に広がる。湖面には漣が立ち、背後に緑の裏志賀山を従えて幻想的な雰囲気包まれている。

この山上湖の畔で休憩をとり、岸辺の山道を麓へ進む。池尻で大沼池と別れて溪流沿いに林道を坦々と歩む。発哺分岐を経てそのまま林道を下って大沼池入口バス停に着く。



焼額山頂上の稚児池湿原

アライタ沢から岩菅山へ

(07年7月27日歩く)

初秋の青空の下、前泊したホテルの車^{クルマ}で聖平^{せいへい}へ行き、標高差約70^{メートル}の樹林帯^{じりんたい}を登ると、聖平上^{せいへいじょう}の上条用水路^{かみじょうすいじろ}の脇^{わき}に着く。底清水^{そこしみず}という湧水^{ゆずみ}を見て用水

路沿いの水平道^{すいへいどう}を行き、武右衛門沢^{ぶえもんざい}を渡るとすぐアライタ沢^{あらいたざい}に着く。水流の多いアライタ沢を渡ると本格的な山道が始まる。

木段の急登が緩くなると、1738^{メートル}標高点峰^{ひょうこうてん}に着く。この先の道は泥濘が多いが、程なく周囲の広葉樹林^{こうようじりん}が明るい快適な道になる。さらに急坂を登ると1893^{メートル}標高点のある「中間点」に出て、高山帯らしくなってくる。

やがて樹間から左側の青空の下に岩菅山^{いわくささん}の上部が望まれる。緑に覆われた三角錐^{さんかくすい}状のすっきりした山容だ。尾根道^{おんねどう}は左へ緩く曲がりながら稜線^{りょうせん}鞍部^{あなぶ}のノッキリに登り着く。

ここから標高差約220^{メートル}の山頂への登りが始まる。低いササの道を行くと右手^{みぎ}が大きく開け、野反湖^{ののひらこ}周辺の白砂山^{しろすなさん}付近^{きん}の山なみが青空を限る。

丸太^{まるたい}組みの階段^{かいだん}の続く急登になる。正面^{しょうめん}には岩にまとわれた山頂^{さんてい}が聳える。途中からハイマツ^{ハイマツ}が現れ、高山の雰囲気^{ふんいき}になる。やがて、大きな岩礫^{いんれき}の重なる広々とした山頂^{さんてい}に登り着く。

岩菅山^{いわくささん}（一等三角点^{いちとうさんかくてん}峰^{みね}2295・0^{メートル}）には石祠^{いしだいら}が建ち、北西隅^{きたせいぐも}には避難小屋^{ひなんこや}がある。東と南には大展望^{たいてんぞう}ができる。西と北は浅間山^{せんまさん}まで遠望^{とんぼう}できる。樹林^{じりん}に遮られるが、裏岩菅山^{うらいわくささん}の山体^{さんたい}が尾根^{おんね}続きに大きく望まれる。

山頂^{さんてい}に広がる紺青^{こんせい}の空には初秋^{しゅしゅう}の爽やかな気配^{きはい}が満ちて清々^{せいせい}しい。真夏^{まなげ}と一味^{いまい}ちがった初秋^{しゅしゅう}の山は佳いものだ。まだ昼前^{ひるまへ}なので山頂^{さんてい}で心ゆくまで休憩^{きゅうけい}してから、往路^{おうろ}を引き返した。

(05年9月17日歩く)

焼額山・稚児池湿原へ

梅雨^{つゆ}あけが遅く8月に入ったが、宿の予約^{よやく}の関係^{かんけい}でお盆^{お盆}すぎになった。

快晴^{くわいせい}のもと、宿^{しゆく}の車^{クルマ}でプリンスホテル^{プリンスホテル}西館^{にしくわん}前^{まへ}まで行き登山口^{とんさんぐち}へ歩く。東斜面^{とうしゃめん}が多数^{たうすう}のゲレンデ^{ゲレンデ}で覆^{おほ}われている焼額山^{やうがくさん}は、山頂^{さんてい}が稚児池湿原^{しよじ池しつげん}のお花畑^{おはなばたけ}なので、夏^{なつ}の高山植物^{こうしんじふつ}観賞^{くわんしょう}の対象^{たいしょう}として麓^{ふもと}から歩いて往復^{おうふく}すれば、登山^{とんさん}と花とが同時に楽しめる。

登山口^{とんさんぐち}から広葉樹林^{こうようじりん}帯^{たい}の下^{した}の涼しい

山道に入る。アサギマダラが群舞する所を過ぎてゲレンデを横断する。ヨツバヒヨドリやヤマハハコの群生地だ。ふたたび山道に入り少し登ると次のゲレンデ横のコブに着き笠ヶ岳の鋭鋒を展望する。程なくリフトの終点で、ヤナギランの群生地だ。その先はゲレンデ登りで頂稜部に近づく。タカネニガナ・イワシヨウブ・アキノキリンソウ・ノアザミが咲き乱れ、灌木帯に入ると木道になり、山頂に導かれる。

山頂には稚児池湿原が広がり別天地の景観だ。木道に沿って湿原と森を一周できるほど山頂は広い。8月中旬のため花が少なく、ウメバチソウやリンドウが見られる程度だ。しかし、2010以上の山頂湿原に満足感が得られる。夏でも運転中のゴンドラを尻目に往路を下ればこの山行も半日で終わる。

(06年8月18日歩く)

●コースタイム

赤石山

東館山駅—50分—寺小屋山—15分—金山沢ノ頭—1時間—赤石山—1時間—大沼池—

15分—池尻—50分—大沼池入口バス停
岩菅山

聖平—15分—聖平上—30分—アライタ沢出合—40分—中間点—40分—ノッキリ—40分—岩菅山(復路は省略)

焼額山

登山口—55分—リフト終点—40分—焼額山

(稚児池湿原)(復路は省略)

●費用

東京⇨長野

JR・新幹線とも 7970円

長野駅東口⇨一の瀬 バス 1800円

ホテルむつみ 1泊2食付 7500円

●地図

岩菅山 切明(2万5千)

高田(20万)

●追記

私は3回に分けたが、サービスの良いホテルむつみに2泊して3日間の山行として、長野新幹線を使えば1回で可能だ。1日目午後は焼額山、2日目は赤石山、3日目は岩菅山か。

てっぺん倶楽部

のんびりゆっくり登山
ガイドは鍼灸士・柔道整復士の有資格者であり、
上級救急技能認定者です
登山中の体調をサポートいたします
安全登山を徹底しています
☆AED(自動体外式除細動器)を常備しています。

〒270-0101

流山市東深井885-74

TEL・FAX 04-7199-8386

(株)つくしんぼ てっぺん倶楽部

☆年間予定表あります

☆詳細はお問い合わせください

6月・7月・8月 山行予定

- ①熊野古道・大普賢岳～八経ヶ岳(100名山)～釈迦ヶ岳(200名山)縦走
6月27日(金)～30日(月)の3泊4日
- ②新潟・金山、天狗原山
7月5日(土)～6日(日)の1泊2日
- ③北海道・富良野岳(花の100名山)～上ホロカメットク山～十勝岳(100名山)～美瑛岳 縦走
7月14日(月)～18日(金)の4泊5日
- ④沢登り・西丹沢 小川谷廊下
7月23日(水)の日帰り
- ⑤南ア・三伏峠～塩見岳(100名山)～間ノ岳(100名山)～農鳥岳(200名山)縦走
8月1日(金)～5日(火)の4泊5日
- ⑥南ア・甲斐駒ヶ岳(100名山)、仙丈ヶ岳(100名山)
8月11日(月)～13日(水)の2泊3日